

浜の活力再生プラン  
令和 4～8 年度  
(第 2 期)

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	千葉県地域水産業再生委員会安房地区部会勝山地区
代表者名	安房地区部会長 鈴木 直一（岩井富浦漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	天羽、鋸南町保田、鋸南町勝山、岩井富浦、館山、西岬、波左間、東安房、鴨川市各漁業協同組合、富津市、鋸南町、南房総市、館山市、鴨川市の各水産主務課、千葉県（館山水産事務所）、千葉県漁業協同組合連合会
オブザーバー	千葉県水産総合研究センター

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	鋸南町 勝山地区（鋸南町勝山漁業協同組合の地区） 定置網漁業 1 経営体 （13 名） 養殖業 1 経営体 （ 3 名） 小型漁船漁業 57 経営体 （45 名） 令和 4 年 3 月時点（漁協調べ）
-----------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>勝山地区は、かつてはサバ・サンマ棒受網漁業が盛んな地域であったが、資源の減少とともに大型漁船漁業が衰退し、現在は主に定置網漁業、マダイ、シマアジなどの養殖業、小型船によるキンメダイ等の釣り、イセエビ刺し網漁業及びサザエ、アワビ等を対象とするあま漁業が営まれている。</p> <p>地区の水揚量は令和 2 年で 1,172 トンあり、そのうち定置網漁業による水揚量は 993 トンと、約 8 割を占めている。漁協自営で営む大型定置網漁業（以下「大型定置」）は、長年安定した水揚量を維持している。令和元年度から新たに小型定置網漁業（以下「小型定置」）も操業を開始し、また令和 2 年度に大型定置に新型の網を導入し、鋸南町勝山漁業協同組合の経営の柱となっている。</p> <p>また漁協では、県内唯一の魚類の海面養殖を行っており、マダイ、シマアジの養殖は漁協の基幹事業のひとつとなっている。そのほか、漁協は自営食堂「なぶら」を経営しており、勝山漁港</p>
--

で水揚げされた新鮮な魚介類を提供している。

しかし、令和元年房総半島台風により大型定置、養殖施設及び各種陸上施設は甚大な被害を受け、特に大型定置においては網の破損等、約9千万円の被害となった。また、魚類養殖については令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、主要な販売先であるホテル等での需要が大幅に落ち込み、販売単価を下げざるを得なかった。

## (2) その他の関連する現状等

鋸南町は、房総半島南部の内房地域に位置し、海と山の恵みを受ける温暖な地域である。県内外から海水浴や釣りのため、多くの人が海を訪れるとともに、町名の由来となった関東の名山・鋸山を抱き、水仙の日本三大産地のひとつでもあることから多くの観光客が足を運んでいる。

また、浮世絵の創始者である菱川師宣生誕や源頼朝上陸の地、夏目漱石や小林一茶など多くの文化人が訪れ興味深いエピソードを残すなど豊かな歴史と文化に触れられることでも知られている。

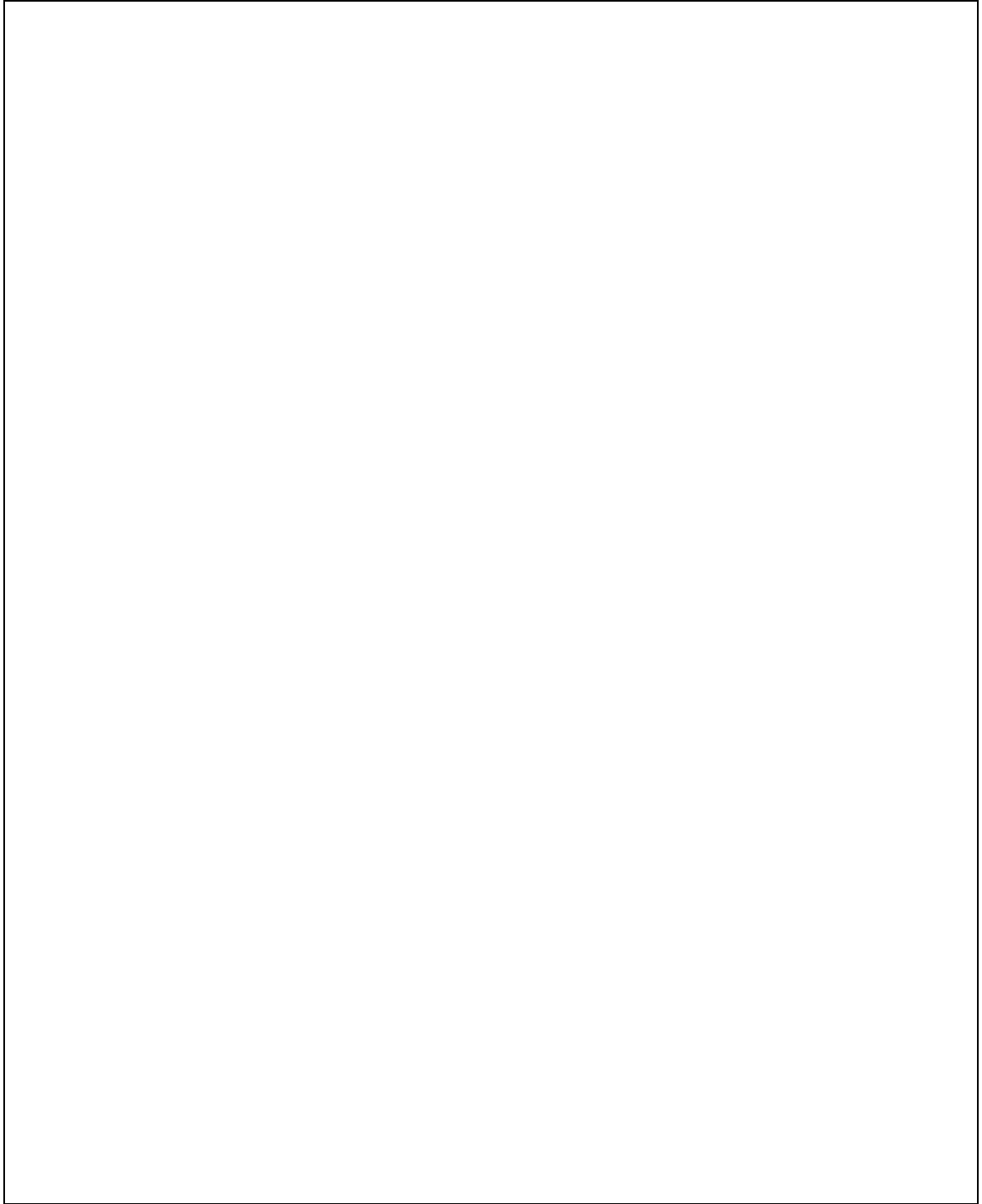
こうした魅力を活かして、鋸南町では平成27年度から令和2年度まで「鋸南町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「本町の特性を活かした産業振興と雇用創造」など、4つの基本目標を掲げて、地域のさらなる発展を目指してきた。また、同町では令和3年度から12年度までは後継戦略として「鋸南町総合計画」を策定し、「活気あふれる産業のまちづくり」などの6つの基本目標のもと、町の発展を目指している。

また、鋸南町が属する安房地域では、収益性の高い漁業経営体への転換、市場の再編や整備を柱として平成28年度に第1期、令和3年度に第2期の「浜の活力再生広域プラン」を策定し、取り組んでいるところである。

## 3 活性化の取組方針

### (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

**漁業収入向上のための取組**

①水産資源の維持増大

(ア)資源管理の適切な管理

・漁協及び漁業者は、キンメダイを対象とした樽流し漁法の禁止、釣り漁法における針数の制限、

刺網漁業を対象とした定期休漁の設定、定置網漁業（大型、小型）を対象とした休漁期間の設定を内容とした資源管理計画に基づく取組を継続するとともに、計画の自主点検と見直しを行うことで、適切に資源管理に取り組む。

- ・漁協及び漁業者は、アワビ、トコブシ、サザエ等の磯根資源増大のため禁漁区の維持運営を行う。

#### (イ)栽培漁業の推進

- ・漁協及び漁業者は、マダイ、ヒラメ、トラフグ、アワビ、クルマエビ及びサザエなどの種苗放流を継続して実施し、資源の底支えを図る。

- ・漁協及び漁業者は千葉県水産総合研究センターと連携して、磯根資源の良好な生育環境である藻場の維持・回復のため浮遊・堆積物の除去、岩盤清掃、アラメ・カジメの母藻を入れた生分解性素材の袋（スポアバッグ）の設置、ガンガゼやアイゴ等の食害生物除去、取組みのモニタリングなど地域の状況に適した藻場消失対策、藻場の再生に取り組む。

- ・漁協及び漁業者はアオリイカ資源増大のため産卵礁を設置し、併せて禁漁期間の設定による資源管理を行う。

#### ②漁獲物の付加価値向上対策

##### (ア)ブランド力の強化

- ・漁協及び漁業者は、自営定置網漁業において活魚ニーズのある魚種の取扱量の増加や、自営定置・小型船漁業において神経締め等による鮮度向上対策による付加価値向上を図る。

- ・漁協は HACCP の考え方を取り入れた産地市場の衛生管理マニュアルを導入し、衛生管理を徹底する。

##### (イ)蓄養魚出荷体制構築

- ・漁協は、定置網漁業で漁獲されたサバ類などを蓄養し、身質の向上などに取り組み、魚価向上を図る。

##### (ウ)低・未利用魚の活用

- ・漁協は、小型イカ、ギマなど低価格魚の加工品を開発し付加価値向上を図る。

- ・漁協は、低利用資源のムラサキウニの肥育による有効利用を図る。

##### (エ)自営定置漁業の体制強化

- ・漁協は、従来の大型定置網と併せて新規に導入した小型定置網を効率的に運用し、また導入した定置船、新素材を採用した改良型定置網を用いることで修繕のための休漁や急潮等による休漁が軽減され、操業日数の増加により収益向上を図る。

- ・漁協は省人化により生まれるマンパワーを活用し、船上における漁獲物の船上活締め等の付加価値向上に取り組む。

- ・漁協は自営定置網漁業において導入した船上選別機を活用し、操業時間の短縮と漁獲後の鮮度の向上を図る。

##### (オ)自営養殖産品の販路拡大と品質向上

- ・漁協は、千葉ブランド水産物として認定されたマダイや、シマアジの養殖を継続する。また漁

協ホームページ内に「鋸南町勝山漁協 養殖江戸前真鯛」のページを作成し、積極的にPRする。

・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大による需要の変化を注視しながら、販路の拡大と増産に努める。飼育密度に余裕のある現有施設を有効活用し、令和5年度以降種苗購入量を10%増加し、これが製品となる令和8年度には販売量を10%増加させる。

・漁協は、活魚センターによるECサイトを開設し、個人、飲食店向けの鮮魚のネット販売を行う。

・漁協は、千葉ブランド水産物に認定された養殖マダイについて、神経締めを導入することにより更なる付加価値の向上を図る。

### ③水産物の消費拡大対策

#### (ア)漁協直営食堂の収益向上

・漁協は、自営食堂で低・未利用魚を用いた新規メニューを開発し収益向上を図る。

・漁協は、ホームページでの漁協直営食堂のPRを行う。

・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めることで、継続的な集客につなげる。

・漁協は、地域における漁協直営食堂間の連携を図り、共同のキャンペーンの実施により収益率の向上を図る。

#### (イ)商工観光業との連携PR

・漁協は、地域特産品としてPRするため、鋸南町のふるさと納税贈答品として養殖魚などを供給する。

#### (ウ)魚食普及活動の推進

・漁協は養殖魚等の学校給食への提供と、併せて漁業の紹介、魚食普及に努める。

### ④漁業就業者の確保・育成

#### (ア)漁業の担い手対策

・漁協は、県、漁連と連携し自営事業（定置網漁業・養殖業）における漁業体験や就業の研修を実施し、新規漁業者の確保を図り、地域漁業の担い手の確保に努める。漁協は、この浜プランの取組を通じ、高齢就業者から若年就業者へ技術を継承しながら世代交代することで、定置網漁業と養殖業の安定的な人員体制の確立を目指す。

## 生産コスト削減の取組

### ①省燃油対策等

#### (ア)省エネ機器の導入等

・漁業者は、低燃費機関の導入などにより燃油コストの削減を図る。

・漁業者は、船底清掃や減速走行による燃油コストの削減を図る。

・漁協は、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業により導入した省エネ型漁船により燃油コストの削減を図るとともに、水産業成長産業化沿岸地域創出事業により導入した改良型漁具により、定置網の定期的な交換が必要な部品を非金属化することによるランニングコストの削減と、併せて破損修理、網交換回数が減ることにより燃油費用削減を図る。

- ・漁協は、令和3年に導入した冷凍庫により、安価な自営定置網漁獲物を養殖用餌料として活用することで、養殖業の経費を削減する。
- ・漁業者は、漁業経営セーフティネット事業加入により漁業経営の安定を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・資源管理計画（休漁措置等）
- ・千葉県漁業調整規則 第37条（禁止期間、体長等の制限）

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和4年度）所得向上目標 1.0%（対基準年）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①水産資源の維持増大</p> <p>(ア)資源管理の適切な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、実践中の「キンメダイ立縄漁業」、「刺網漁業」及び「定置網漁業」に係る資源管理計画の取組を遵守する。</li> <li>・漁協及び漁業者は、アワビ、トコブシ、サザエ等の磯根資源増大のため禁漁区の維持運営を行う。</li> </ul> <p>(イ)栽培漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、マダイ、ヒラメ、アワビ、クルマエビ及びサザエの資源増大に対する取組として種苗放流を継続する。</li> <li>・漁協及び漁業者は千葉県水産総合研究センターと連携して、磯根資源の良好な生育環境である藻場の維持・回復のため浮遊・堆積物の除去、岩盤清掃、アラメ・カジメの母藻を入れた生分解性素材の袋（スポアバッグ）の設置、ガンガゼやアイゴ等の食害生物除去、取組みのモニタリングなど地域の状況に適した藻場消失対策、藻場の再生に取り組む。</li> <li>・漁協及び漁業者はアオリイカ資源増大のため産卵礁を設置し、併せて禁漁期間の設定による資源管理を行う。</li> </ul> <p>②漁獲物の付加価値向上対策</p> <p>(ア)ブランド力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は HACCP の考え方を取り入れた産地市場の衛生管理マニュアルを導入し、定期的な検査を行うなど衛生管理を徹底する。</li> <li>・漁協は自営定置網漁業においてマダイ、ヒラメ、スズキ等の活魚ニーズのある魚種の活魚取扱量の増加を図る。また漁協及び小型船漁業者は神経締め研修を行い、試験的な導入を行う。</li> </ul> <p>(イ)蓄養魚出荷体制構築</p>
---------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、定置網漁業で漁獲されたサバ類などを蓄養し、身質の向上などに取り組み、魚価向上を図る。</li> </ul> <p>(ウ)低・未利用魚の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、低価格魚の加工品の開発について、試作品を作成し、直営食堂で提供することで、加工法、コスト、単価等について検討する。</li> <li>・漁協は低利用資源のムラサキウニの肥育試験を再開し、効率的な肥育方法を検討する。</li> </ul> <p>(エ)自営定置漁業の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、従来の大型定置網と併せて新規に導入した小型定置網を効率的に運用し、また導入した定置船、新素材を採用した改良型定置網を用いることで修繕のための休漁や急潮等による休漁を軽減し、操業日数の増加により収益の向上を図る。</li> <li>・漁協は、省人化により生まれるマンパワーを活用し、船上における漁獲物の活締め等の付加価値向上に取り組む等、収益向上を図る。</li> <li>・漁協は、自営定置網漁業において導入した船上選別機を活用し、操業時間の短縮と漁獲後の鮮度の向上を図る。</li> </ul> <p>(オ)自営養殖の販路拡大と品質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は千葉ブランド水産物として認定されたマダイや、シマアジの養殖を継続する。また漁協ホームページ内に「鋸南町勝山漁協 養殖江戸前真鯛」のページを作成し、積極的にPRし販路の拡大に努める。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大により減少したホテル等の需要に対応するための量販店等への新たな販路の拡大に取り組む。</li> <li>・漁協はECサイトの開設と、活魚センターによる鮮魚のネット販売について検討する。</li> <li>・漁協は、神経締めの研修を行い、試験的な導入を行う。</li> </ul> <p>③水産物の消費拡大対策</p> <p>(ア)漁協直営食堂の収益向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、自営食堂で低・未利用魚を用いた新規メニューを開発し収益向上を検討する。</li> <li>・漁協はホームページで漁協直営食堂のPRを行う。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、従業員のマスク装着・手洗いの励行に努め、また座席数を減らすなどの密を避ける対策を講じることで、継続的な集客につなげる。</li> <li>・漁協は、地域における直営食堂等で実施する、サバフェア、なめろうフェアなどの共同のキャンペーンに参加し、集客を図る。</li> </ul> <p>(イ)商工観光業との連携PR</p>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、千葉ブランド水産物として認定されている養殖マダイ等を鋸南町のふるさと納税贈答品として供給することについて、具体的な供給方法等を検討する。</li> </ul> <p>(ウ)魚食普及活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、養殖魚等の学校給食への提供と、併せて漁業の紹介、魚食普及に努める。</li> </ul> <p>④漁業就業者の確保・育成</p> <p>(ア)漁業の担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、県、漁連と連携し自営事業（定置網漁業・養殖業）における高校生のインターンシップの受け入れや、一般の就業希望者の中短期研修を積極的に実施し新規漁業者の確保を図る。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、低燃費機関の導入などにより燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁業者は漁船の自主点検整備による修繕費の削減、船底清掃や減速走行による燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁協は、定置網の定期的な交換が必要な部品を非金属化することによるランニングコストの削減と、併せて破損修理、網交換回数が減ることにより燃油費用削減を図る。</li> <li>・漁協は、導入した冷凍庫により、安価な自営定置網漁獲物を養殖用餌料として活用するための試験を行う。</li> <li>・漁業者は、漁業経営セーフティネット事業加入により漁業経営の安定を図る。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜の担い手漁船リース緊急事業（国）</li> <li>・新規漁業就業者総合支援事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業（国）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li> </ul>

2年目（令和5年度）所得向上目標 3.9%（対基準年）

漁業収入向上のための取組	<p>①水産資源の維持増大</p> <p>(ア)資源管理の適切な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、実践中の「キンメダイ立縄漁業」、「刺網漁業」及び「定置網漁業」に係る資源管理計画の取組を継続する。</li> <li>・漁協及び漁業者は、アワビ、トコブシ、サザエ等の磯根資源増大のため禁漁区の維持運営を行う。</li> </ul> <p>(イ)栽培漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、マダイ、ヒラメ、アワビ、クルマエビ及びサザエの資</li> </ul>
--------------	--



	<p>源増大に対する取組として種苗放流を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は千葉県水産総合研究センターと連携して、磯根資源の良好な生育環境である藻場の維持・回復のため浮遊・堆積物の除去、岩盤清掃、アラメ・カジメの母藻を入れた生分解性素材の袋（スポアバッグ）の設置、ガンガゼやアイゴ等の食害生物除去、取組みのモニタリングなど地域の状況に適した藻場消失対策、藻場の再生に取り組む。</li> <li>・漁協及び漁業者はアオリイカ資源増大のため産卵礁を設置し、併せて禁漁期間の設定による資源管理を行う。</li> </ul> <p>②漁獲物の付加価値向上対策</p> <p>(ア)ブランド力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は前年に導入した産地市場の衛生管理マニュアルにより、定期的な検査を行うなど衛生管理を徹底し、作業・点検の見直しを随時行う。</li> <li>・漁協は自営定置網漁業においてマダイ、ヒラメ、スズキ等の活魚率を増やす。また漁協及び漁業者は定置、小型船漁業で神経締めを本格導入し、付加価値の向上を図る。</li> </ul> <p>(イ)蓄養魚出荷体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、定置網漁業で漁獲されたサバ類などを蓄養し、身質の向上などに取り組む、魚価向上を図る。</li> </ul> <p>(ウ)低・未利用魚の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、低価格魚の加工品の開発について、試作品を作成し、直営食堂で提供することで、加工法、コスト、単価等について検討する（継続）。</li> <li>・漁協は低利用資源のムラサキウニの肥育試験において、効率的な肥育方法を検討し、直営食堂で提供する。</li> </ul> <p>(エ)自営定置漁業の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、従来の大型定置網と併せて新規に導入した小型定置網を効率的に運用し、また導入した定置船、新素材を採用した改良型定置網を用いることで修繕のための休漁や急潮等による休漁を軽減し、操業日数の増加により収益向上を図る。</li> <li>・漁協は、省人化により生まれるマンパワーを活用し、船上における漁獲物の活締め等の付加価値向上に取り組む等、収益向上を図る。</li> <li>・漁協は、自営定置網漁業において導入した船上選別機を活用し、操業時間の短縮と漁獲後の鮮度の向上を図る。</li> </ul> <p>(オ)自営養殖の販路拡大と品質的向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は千葉ブランド水産物として認定されたマダイや、シマアジの養殖を継続する。また漁協ホームページ内に「鋸南町勝山漁協 養殖江戸前真鯛」のページを作成し、積極的にPRし販路の拡大に努める。</li> </ul>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大により減少したホテル等の需要に対応するための量販店等への新たな販路の拡大に取り組む。</li> <li>・漁協はE Cサイトを開設し、個人、飲食店向けの鮮魚のネット販売を行う。</li> <li>・漁協は神経締めを本格導入し、付加価値の向上を図る。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大による需要の変化を注視しながら、増産を図るため、マダイ、シマアジの種苗の購入量を10%増やし、育成する。</li> </ul> <p>③水産物の消費拡大対策</p> <p>(ア)漁協直営食堂の収益向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、自営食堂で低・未利用魚を用いた新規メニューを開発し収益向上を図る。</li> <li>・漁協はホームページで漁協直営食堂のPRを行う。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、従業員のマスク装着・手洗いの励行に努め、また座席数を減らすなどの密を避ける対策を講じることで、継続的な集客につなげる。</li> <li>・漁協は、内房地域における直営食堂等で実施する、サバフェア、なめろうフェアなどの共同のキャンペーンに参加し、集客を図る。</li> </ul> <p>(イ)商工観光業との連携PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、千葉ブランド水産物として認定されている養殖マダイ等を鋸南町のふるさと納税贈答品として供給を始める。</li> </ul> <p>(ウ)魚食普及活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、養殖魚等の学校給食への提供と、併せて漁業の紹介、魚食普及に努める。</li> </ul> <p>④漁業就業者の確保・育成</p> <p>(ア)漁業の担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、県、漁連と連携し自営事業（定置網漁業・養殖業）における高校生のインターンシップの受け入れや、一般の就業希望者の中短期研修を積極的に実施し新規漁業者の確保を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、低燃費機関の導入などにより燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁業者は、漁船の自主点検整備による修繕費の削減、船底清掃や減速走行による燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁協は、定置網の定期的な交換が必要な部品を非金属化することによるランニングコストの削減と、併せて破損修理、網交換回数が減ることにより燃油費用削減を図る。</li> <li>・漁協は、導入した冷凍庫により、安価な自営定置網漁獲物を養殖用餌料として活用するための試験を行う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁業経営セーフティネット事業加入により漁業経営の安定を図る。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜の担い手漁船リース緊急事業（国）</li> <li>・新規漁業就業者総合支援事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業（国）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li> </ul>

3年目（令和6年度）所得向上目標 5.0%（対基準年）

漁業収入向上のための取組	<p>①水産資源の維持増大</p> <p>(ア)資源管理の適切な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、実践中の「キンメダイ立縄漁業」、「刺網漁業」及び「定置網漁業」に係る資源管理計画の取組を継続する。</li> <li>・漁協及び漁業者は、アワビ、トコブシ、サザエ等の磯根資源増大のため禁漁区の維持運営を行う。</li> </ul> <p>(イ)栽培漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、マダイ、ヒラメ、アワビ、クルマエビ及びサザエの資源増大に対する取組として種苗放流を継続する。</li> <li>・漁協及び漁業者は千葉県水産総合研究センターと連携して、磯根資源の良好な生育環境である藻場の維持・回復のため浮遊・堆積物の除去、岩盤清掃、アラメ・カジメの母藻を入れた生分解性素材の袋（スポアバッグ）の設置、ガンガゼやアイゴ等の食害生物除去、取組みのモニタリングなど地域の状況に適した藻場消失対策、藻場の再生に取り組む。</li> <li>・漁協及び漁業者はアオリイカ資源増大のため産卵礁を設置し、併せて禁漁期間の設定による資源管理を行う。</li> </ul> <p>②漁獲物の付加価値向上対策</p> <p>(ア)ブランド力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は1年目に導入した産地市場の衛生管理マニュアルにより、定期的な検査を行うなど衛生管理を徹底し、作業・点検の見直しを随時行う。</li> <li>・漁協は自営定置網漁業においてマダイ、ヒラメ及びスズキ等の活魚率を増やす。また漁協及び漁業者は定置、小型船漁業における神経締め取組を拡大し、付加価値の向上を図る。</li> </ul> <p>(イ)蓄養魚出荷体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、定置網漁業で漁獲されたサバ類などを蓄養し、身質の向上などに取り組み、魚価向上を図る。</li> </ul> <p>(ウ)低・未利用魚の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、開発した試作品を直営食堂で提供し、コスト等について検討する。</li> </ul>
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は低利用資源のムラサキウニの肥育についてコスト・単価について検討し、事業化について検討する</li> </ul> <p>(エ)自営定置漁業の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、従来の大型定置網と併せて新規に導入した小型定置網を効率的に運用し、また導入した定置船、新素材を採用した改良型定置網を用いることで修繕のための休漁や急潮等による休漁を軽減し、操業日数の増加により収益の向上を図る。</li> <li>・漁協は、省人化により生まれるマンパワーを活用し、船上における漁獲物の船上活締め等の付加価値向上に取り組む等、収益向上を図る。</li> <li>・漁協は自営定置網漁業において導入した船上選別機を活用し、操業時間の短縮と漁獲後の鮮度の向上を図る。</li> </ul> <p>(オ)自営養殖の販路拡大と品質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は千葉ブランド水産物として認定されたマダイや、シマアジの養殖を継続する。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大により減少したホテル等の需要の回復と併せ量販店等への販路の拡大に取り組む。</li> <li>・漁協はE Cサイトにより、個人、飲食店向けの鮮魚のネット販売を行う。</li> <li>・漁協は神経締めの取組を拡大し、付加価値の向上を図る。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大による需要の変化を注視しながら、増産を図るため、マダイ、シマアジの種苗の購入量は前年に増やした量を維持し、育成を行う。</li> </ul> <p>③水産物の消費拡大対策</p> <p>(ア)漁協直営食堂の収益向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、自営食堂で低・未利用魚を用いた新規メニューを定例化し収益向上を図る。</li> <li>・漁協はホームページで漁協直営食堂のPRを行う。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、従業員のマスク装着・手洗いの励行に努め、また座席数を減らすなどの密を避ける対策を講じることで、継続的な集客につなげる。</li> <li>・漁協は、地域における直営食堂等で実施する、サバフェア、なめろうフェアなどの共同のキャンペーンに参加し、集客を図る。</li> </ul> <p>(イ)商工観光業との連携PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、千葉ブランド水産物として認定されている養殖マダイ等を鋸南町のふるさと納税贈答品として供給する。</li> </ul> <p>(ウ)魚食普及活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、養殖魚等の学校給食への提供と、併せて漁業の紹介、魚食普及に</li> </ul>
--	---

	<p>努める。</p> <p>④漁業就業者の確保・育成</p> <p>(ア)漁業の担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、県、漁連と連携し自営事業（定置網漁業・養殖業）における高校生のインターンシップの受け入れや、一般の就業希望者の中短期研修を積極的に実施し新規漁業者の確保を図る。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、低燃費機関の導入などにより燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁業者は漁船の自主点検整備による修繕費の削減、船底清掃や減速走行による燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁協は、定置網の定期的に交換が必要な部品を非金属化することによるランニングコストの削減と、併せて破損修理、網交換回数が減ることにより燃油費用削減を図る。</li> <li>・漁協は、導入した冷凍庫により、安価な自営定置網漁獲物を養殖用餌料として活用することで、養殖にかかる経費の削減を図る。</li> <li>・漁業者は、漁業経営セーフティネット事業加入により漁業経営の安定を図る。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜の担い手漁船リース緊急事業（国）</li> <li>・新規漁業就業者総合支援事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業（国）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li> </ul>

4年目（令和7年度）所得向上目標 6.6%（対基準年）

漁業収入向上のための取組	<p>①水産資源の維持増大</p> <p>(ア)資源管理の適切な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、実践中の「キンメダイ立縄漁業」、「刺網漁業」及び「定置網漁業」に係る資源管理計画の取組を継続する。</li> <li>・漁協及び漁業者は、アワビ、トコブシ、サザエ等の磯根資源増大のため禁漁区の維持運営を行う。</li> </ul> <p>(イ)栽培漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、マダイ、ヒラメ、アワビ、クルマエビ及びサザエの資源増大に対する取組として種苗放流を継続する。</li> <li>・漁協及び漁業者は千葉県水産総合研究センターと連携して、磯根資源の良好な生育環境である藻場の維持・回復のため、浮遊・堆積物の除去、岩盤清掃、アラメ・カジメの母藻を入れた生分解性素材の袋（スポアバッグ）の設置、ガンガゼやアイゴ等の食害生物除去、取組みのモニタリングなど地域の状況に適した藻場消失対策、藻場の再生に取り組む。</li> </ul>
--------------	--

	<p>・漁協及び漁業者はアオリイカ資源増大のため産卵礁を設置し、併せて禁漁期間の設定による資源管理を行う。</p> <p>②漁獲物の付加価値向上対策</p> <p>(ア)ブランド力の強化</p> <p>・漁協は1年目に導入した産地市場の衛生管理マニュアルにより、定期的な検査を行うなど衛生管理を徹底し、作業・点検の見直しを随時行う。</p> <p>・漁協は自営定置網漁業においてマダイ、ヒラメ、スズキ等の活魚率を増やす。また漁協及び漁業者は、定置、小型船漁業で神経締めを取組を拡大し、付加価値の向上を図る。</p> <p>(イ)蓄養魚出荷体制構築</p> <p>・漁協は、定置網漁業で漁獲されたサバ類などを蓄養し、身質の向上などに取り組み、魚価向上を図る。</p> <p>(ウ)低・未利用魚の活用</p> <p>・漁協は、前年までに検討してきた商業化が可能な低価格魚の加工品について、本格販売を行う。</p> <p>・漁協は低利用資源のムラサキウニの肥育についてコスト・単価について検討し、事業化について検討する</p> <p>(エ)自営定置漁業の体制強化</p> <p>・漁協は、従来の大型定置網と併せて新規に導入した小型定置網を効率的に運用し、また導入した定置船、新素材を採用した改良型定置網を用いることで修繕のための休漁や急潮等による休漁を軽減し、操業日数の増加により収益の向上を図る。</p> <p>・漁協は、省人化により生まれるマンパワーを活用し、船上における漁獲物の活締め等の付加価値向上に取り組む等、収益向上を図る。</p> <p>・漁協は、自営定置網漁業に導入した船上選別機を活用し、操業時間の短縮と漁獲後の鮮度の向上を図る。</p> <p>(オ)自營養殖の販路拡大と品質向上</p> <p>・漁協は千葉ブランド水産物として認定されたマダイや、シマアジの養殖を継続する。</p> <p>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大により減少したホテル等の需要の回復と併せ量販店等への販路の拡大に取り組む。</p> <p>・漁協はECサイトにより、個人、飲食店向けの鮮魚のネット販売を行う。</p> <p>・漁協は神経締めを取組を拡大し、付加価値の向上を図る。</p> <p>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大による需要の変化を注視しながら、増産を図るため、マダイ、シマアジの種苗の購入量は前年に増やした量を維持し、育成を行う。</p>
--	--

	<p>③水産物の消費拡大対策</p> <p>(ア)漁協直営食堂の収益向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、自営食堂でこれまでに定例化した低・未利用魚を用いたメニューの販売を増強し収益向上を図る。</li> <li>・漁協はホームページで漁協直営食堂のPRを行う。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、従業員のマスク装着・手洗いの励行に努め、また座席数を減らすなどの密を避ける対策を講じることで、継続的な集客につなげる。</li> <li>・漁協は、地域における直営食堂等で実施する、サバフェア、なめろうフェアなどの共同のキャンペーンに参加し、集客を図る。</li> </ul> <p>(イ)商工観光業との連携PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、千葉ブランド水産物として認定されている養殖マダイ等を鋸南町のふるさと納税贈答品として供給する。</li> </ul> <p>(ウ)魚食普及活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、養殖魚等の学校給食への提供と、併せて漁業の紹介、魚食普及に努める。</li> </ul> <p>④漁業就業者の確保・育成</p> <p>(ア)漁業の担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、県、漁連と連携し自営事業（定置網漁業・養殖業）における高校生のインターンシップの受け入れや、一般の就業希望者の中短期研修を積極的に実施し新規漁業者の確保を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、低燃費機関の導入などにより燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁業者は漁船の自主点検整備による修繕費の削減、船底清掃や減速走行による燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁協は、定置網の定期的な交換が必要な部品を非金属化することによるランニングコストの削減と、併せて破損修理、網交換回数が減ることにより燃油費用削減を図る。</li> <li>・漁協は、引き続き、安価な自営定置網漁獲物を養殖用餌料として活用することで、養殖に係る経費の削減を図る。</li> <li>・漁業者は、漁業経営セーフティネット事業加入により漁業経営の安定を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜の担い手漁船リース緊急事業（国）</li> <li>・新規漁業就業者総合支援事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業（国）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li> </ul>

5年目（令和8年度）所得向上目標 12.4%（対基準年）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①水産資源の維持増大</p> <p>(ア)資源管理の適切な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、実践中の「キンメダイ立縄漁業」、「刺網漁業」及び「定置網漁業」に係る資源管理計画の取組を継続する。</li> <li>・漁協及び漁業者は、アワビ、トコブシ、サザエ等の磯根資源増大のため禁漁区の維持運営を行う。</li> </ul> <p>(イ)栽培漁業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協及び漁業者は、マダイ、ヒラメ、アワビ、クルマエビ及びサザエの資源増大に対する取組として種苗放流を継続する。また、新たにトラフグを種苗放流する。</li> <li>・漁協及び漁業者は千葉県水産総合研究センターと連携して、磯根資源の良好な生育環境である藻場の維持・回復のため、浮遊・堆積物の除去、岩盤清掃、アラメ・カジメの母藻を入れた生分解性素材の袋（スポアバッグ）の設置、ガンガゼやアイゴ等の食害生物除去、取組みのモニタリングなど地域の状況に適した藻場消失対策、藻場の再生に取り組む。</li> <li>・漁協及び漁業者はアオリイカ資源増大のため産卵礁を設置し、併せて禁漁期間の設定による資源管理を行う。</li> </ul> <p>②漁獲物の付加価値向上対策</p> <p>(ア)ブランド力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は1年目に導入した産地市場の衛生管理マニュアルにより、定期的な検査を行うなど衛生管理を徹底し、作業・点検の見直しを随時行う。</li> <li>・漁協は自営定置網漁業においてマダイ、ヒラメ、スズキ等の活魚率を増やす。また漁協及び漁業者は定置、小型船漁業で神経締め取組を拡大し、付加価値の向上を図る。</li> </ul> <p>(イ)蓄養魚出荷体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、定置網漁業で漁獲されたサバ類などを蓄養し、身質の向上などに取り組み、魚価向上を図る。</li> </ul> <p>(ウ)低・未利用魚の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、前年に引き続き、低価格魚の加工品について、本格販売提供を行う。</li> <li>・漁協は低利用資源のムラサキウニの肥育について、これまでの検討の結果、商業化が可能であるなら、本格的に事業化する。</li> </ul> <p>(エ)自営定置漁業の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、従来の大型定置網と併せて新規に導入した小型定置網を効率的に運用し、また導入した定置船、新素材を採用した改良型定置網を用いること</li> </ul>
---------------------	--



	<p>で修繕のための休漁や急潮等による休漁を軽減し、操業日数の増加により収益の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、省人化により生まれるマンパワーを活用し、船上における漁獲物の活締め等の付加価値向上に取り組む等、収益向上を図る。</li> <li>・漁協は、自営定置網漁業において導入した船上選別機を活用し、操業時間の短縮と漁獲後の鮮度の向上を図る。</li> </ul> <p>(オ)自營養殖の販路拡大と質的向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は千葉ブランド水産物として認定されたマダイや、シマアジの養殖を継続する。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大により減少したホテル等の需要の回復と併せ量販店等への販路の拡大に取り組む。</li> <li>・ECサイトにより、個人、飲食店向けの鮮魚のネット販売を行う。</li> <li>・漁協は、神経締めの取組を拡大し、付加価値の向上を図る。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大による需要の変化を注視しながら、増産を図るため、マダイ、シマアジの種苗の購入量は前年に増やした量を維持し、育成・販売を行う。</li> </ul> <p>③水産物の消費拡大対策</p> <p>(ア)漁協直営食堂の収益向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、自営食堂でこれまでに定例化した低・未利用魚を用いたメニューの販売を増強し収益向上を図る。</li> <li>・漁協はホームページで漁協直営食堂のPRを行う。</li> <li>・漁協は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、従業員のマスク装着・手洗いの励行に努め、また座席数を減らすなどの密を避ける対策を講じることで、継続的な集客につなげる。</li> <li>・漁協は、地域における直営食堂等で実施する、サバフェア、なめろうフェアなどの共同のキャンペーンに参加し、集客を図る。</li> </ul> <p>(イ)商工観光業との連携PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、千葉ブランド水産物として認定されている養殖マダイ等を鋸南町のふるさと納税贈答品として供給する。</li> </ul> <p>(ウ)魚食普及活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、養殖魚等の学校給食への提供と、併せて漁業の紹介、魚食普及に努める。</li> </ul> <p>④漁業就業者の確保・育成</p> <p>(ア)漁業の担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、県、漁連と連携し自営事業（定置網漁業・養殖業）における高校生のインターンシップの受け入れや、一般の就業希望者の中短期研修を積極</li> </ul>
--	---

	的に実施し新規漁業者の確保を図る。
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、低燃費機関の導入などにより燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁業者は漁船の自主点検整備による修繕費の削減、船底清掃や減速走行による燃油コストの削減を図る。</li> <li>・漁協は、定置網の定期的に交換が必要な部品を非金属化することによるランニングコストの削減と、併せて破損修理、網交換回数が減ることにより燃油費用削減を図る。</li> <li>・漁協は、引き続き、安価な自営定置網漁獲物を養殖用餌料として活用することで、養殖に係る経費の削減を図る。</li> <li>・漁業者は、漁業経営セーフティネット事業加入により漁業経営の安定を図る。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜の担い手漁船リース緊急事業（国）</li> <li>・新規漁業就業者総合支援事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業（国）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li> </ul>

(5) 関係機関との連携

<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組効果が十分に発現するよう、行政（千葉県、鋸南町）、系統団体（千葉県漁業協同組合連合会等）との連携を強化する。</li> <li>・また、地域の流通加工業者、宿泊業・飲食業など観光関連業とも協力して地域の活性化や地産地消を推進する。</li> <li>・内房地域の同様の漁協直営食堂等と漁協の連携</li> </ul>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	定置網漁業（過去3年平成30~令和2年の平均） 養殖業（過去3年平成30~令和2年の平均） 小型船漁業等（過去3年平成30年~令和2年平均） 総所得 円
	目標年	令和8年度： 総所得 円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

1. 自営定置網漁業の水揚水産物すべての平均単価の向上	基準年	平成 30~令和 2 年平均 定置網漁業平均単価 178 円/kg
	目標年	令和 8 年度 平均単価 196 円/kg (10%向上)
2. 自営養殖業の生産物すべての平均単価の向上	基準年	平成 30~令和 2 年平均 養殖業平均単価 999 円/kg
	目標年	令和 8 年度 平均単価 1,014 円/kg (2%向上)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>1. 自営定置網漁業による年間水揚額/年間水揚量</p> <p>2. 自営養殖業による年間生産額/年間生産量</p> <p>活魚出荷割合、活締め神経締め処理をする水産物の割合等の向上により単価の向上を図る取組が中心であることから、全水揚水産物の平均単価を成果指標とする。</p> <p>算出根拠は別添資料のとおり</p>
---

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
浜の担い手漁船リース緊急事業	(内容) 中核的漁業者である小型船漁業者の収益向上に必要となる漁船リースの取組を支援する。

	<p>(関連性)</p> <p><b>生産コスト削減の取組</b></p> <p>①省燃油対策等</p> <p>(ア)省エネ機器の導入等</p>
新規漁業就業者総合支援事業	<p>(内容)</p> <p>次世代の漁業の担い手となる新規就業者の育成と確保を行う。</p> <p>(関連性)</p> <p><b>漁業収入向上のための取組</b></p> <p>④漁業就業者の確保・育成</p> <p>(ア)漁業の担い手対策</p>
漁業経営セーフティネット構築事業	<p>(内容)</p> <p>燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより、漁業収入の安定化を図り、漁業所得を確保する。</p> <p>燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより、漁業収入の安定化を図り、漁業所得を確保する。</p> <p>(関連性)</p> <p><b>生産コスト削減の取組</b></p> <p>①省燃油対策等</p> <p>(ア)省エネ機器の導入等</p>
水産多面的機能発揮対策事業	<p>(内容)</p> <p>磯根資源にとって重要な生息場である藻場の再生の取組を支援する。</p> <p>(関連性)</p> <p><b>漁業収入向上のための取組</b></p> <p>①水産資源の維持増大策</p> <p>(イ)栽培漁業の推進</p>

※関連事業には、活用を予定している国（水産庁以外を含む）、地方公共団体等の補助金・基金等を記載。ただし、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。